

## 1. ねらい

3年生は学級の編成もなく、精神的には割合に安心してスタートを切ることができる学年である。しかし、一方では新入生を迎え、最上級生としてあるいはリーダーとして良い意味での責任感や、悪い意味での解放感に浸る学年でもある。

そこで、オリエンテーション期間中には、次のことをねらいとして指導していきたい。

- (1) **新学年のスタートにあたり、その喜びをもたせ、最高学年としての自信と誇りを確かなものにさせる。**(○○中の伝統やその素晴らしさを1・2年生に示すことができるようにさせる。「3年生は偉大であり、下級生は上級生に学ぶ」という指導姿勢の中にある、最高学年としての自信と誇りを具体的な活動をとおして示させる。新入生に対する援助、2年生に対する姿勢、3年生としての役割など)
- (2) **2年生までの反省にたつて、3年生としての抱負と心構えを確認し、一人一人の目標を明確にさせ、これからの学校生活の見通しをもたせる。**(自己の可能性を信じ何事にもひたむきに立ち向かう姿勢、望ましい自己実現と自立に向けての努力、最高学年としてのあるべき姿など)
- (3) **学級目標作りやその実現に向けての活動をとおして、生徒同士、生徒と教師の好ましい人間関係を作る。**(進んでより良い学校生活を築こうとする仲間の良さに共感し、共に学級・学年・学校を向上させようとするムード作りとその実践)
- (4) **修学旅行に向けての取り組みをとおして、班や学級・学年の協力体制の強化を図り、また、各学習地でのさまざまな人との出会い・交流を通して「人生いかに生きるべきか」という課題追求に取り組ませる。**(事前学習の充実、班別研修の事前指導など)

## 2. 指導上の留意事項と具体的指導場面

- (1) **新しい生活のスタートであることを強調する。**(今までの見方・考え方・感じ方にとらわれない視点と柔軟性にたった相互理解・生徒理解、春休みの成長の確かめ合い)
  - \* 学級開き、短活、始業式、学年集会など
- (2) **最高学年としての望ましい自覚と誇りをもたせ、後輩に対し、気迫と思いやりのある援助活動を進めさせる。**
  - \* 入学式の準備活動(清掃)、入学式での合唱や態度、対面式での生徒会活動の紹介・合唱・応援歌・態度、日常生活での挨拶・清掃・合唱などの力量、生活全般にわたるはじめ、学級掲示や短学活見学、部活動見学など
- (3) **中学校3年生の立場・特徴を知らせるとともに、自己実現・自立に向けての進路選択のための日常の努力の大切さを認識させる。**
  - \* テストの意味、授業を大切にすること、「生活の記録」での指導など
- (4) **学年での集会を大切に、3年生としての決意と自覚を促し、学級・学年としての結束を強め、集団としての力を発揮させる。**
  - \* 学年朝会、学活での学年集会、合同の短学活など
- (5) **学年執行部を中心に合同の班活動に積極的に取り組み、自分たちの生活を自分たちで創り、向上させていく姿勢をさらに発展させていく。**(自治能力、自治活動の育成、充実)
  - \* 修学旅行の係ごとの活動、学年の月目標の設定とその実践など
- (6) **修学旅行に向けての一連の活動を通して、修学旅行の意義や目標を再認識させながら、当日までの取り組みの見通しをしっかりともちたせる。また、日常生活・日常活動との関わりを大切にさせていく。**
  - \* 事前学習会の充実(下見の結果の活用、学習地の紹介など)、班別研修事前点検、挨拶・合唱活動の充実など

● 第3学年の年度初めのオリエンテーション期間における「ガイダンスの機能を生かした学級活動と他の教育活動との関連を図った指導展開の具体案

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7日目
短話		「こんな学級がいい」集計結果配付	最上級生としての自信と誇りをもたせる			正式の係が進行と連絡をする	
1	紹介式 担任発表 始業式	学級活動① 3年生になって	学級活動③ 修学旅行の準備	教科①	教科⑥	教科⑫	道徳
2	学級開き ・担任方針 ・「こんな学級がいい」記入	2・3年集会 対面式練習	学級活動④ 学級組織作り	教科②	教科⑦	教科⑬	教科⑯
3	入学式準備 生徒会オリエンテーションの工夫と生徒会誌の活用	対面式 ・中学校生活のしおり ・生徒会誌 ・生徒手帳	交通安全教室	教科③	教科⑧	教科⑭	教科⑰
4	入学式練習			教科④	教科⑨	教科⑮	学級活動⑤ 自分で選ぶ 選択教科
昼食	仮の班ごとに楽しく昼食をとろう			正式の班で昼食の準備をしよう			
体操	学級のみならず協力し合って修学旅行に向けての準備を進めよう						
5	入学式	学級活動② 学級目標を決めよう	身体測定	教科⑤	教科⑩	オリエンテーション 総合的な学習の時間	教科⑱
6		具体的な価値を可能に考える			教科⑪		卒業生の体験レポートなどを活用する
清掃	仮の班で清掃	1年生に清掃紹介	仮の班で清掃	正式の班で清掃活動に取り組む			
短話	担任が諸連絡	仮の係が担当	1年生に短話紹介	正式の係が進行と連絡を行う			
連絡事項等	・生徒手帳 ・対面式準備	自分がやりたい役職を考えておく	放課後に学年生徒会の組織を確立	修学旅行に向けて新体制で活動する	・中央委員会 ・学年生徒会		
	2年生の冬休み明けに、修学旅行終了時までの学級組織を決定しておき、修学旅行の準備を並行して進めることもあり得る。				こうした指導展開の案を、始業式の日には生徒に提示して、活動の見通しをもたせておきたいものです。		

「注1」 図中の矢印は、各活動のつながり・発展の方向を示す。 「注2」 学級活動の白抜き数字は、「発表資料」【表5】に対応する。  
「注3」 3年生での学級編成替えがない場合の例。

### 3 ガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案

#### ● 単位時間毎の学級活動の指導計画案の構成

3年-22 題材名 「学習の課題や悩みの解決」

1 目標  
ア 学習上の不安や悩みから逃げずに、前向きに解決する努力をさせる。  
イ 事例検討や相談活動などとして、学習の改善を図らせる

2 ガイダンスの機能（適応/選択）にかかわる能力  
ア 人間関係能力：自ら進んで心を打ち明け、相談する。  
イ 感情統制能力：学習上の不安や悩みは誰にでもあり、それから逃げない気持ちをもつ。  
ウ 問題解決能力：グループ討議や相談によって解決を図る。

3 指導上の工夫（留意点）  
ア 事前に、「学習に関する不安や悩み」のアンケートを実施し、集計して資料化しておく。  
イ ピア・カウンセリングによる教育相談を実施する。  
ウ 一人で悩んでおけやめにならないようにさせる。

4 展開

経	主な学習活動と生活の反応等	主な指導と援助
導	1 「学習に関する不安や悩み」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 学習上の不安や悩みを取り除き、学習活動の改善を図ろう	アンケート結果から気付いたことを数名に発表させる。学習に関する不安や悩みは、誰でもがもっていることを把握させ、その原因や解決の方策等を考え、各自の学習活動の改善に結び付けることを、活動テーマとして確認する。
5		
分		
展	2 「中学生活と進路」p.50の「集中力を高めて成果をあげる」を読んで、悩みの原因（問題点）はどこにあるかを考える。 ・「ながら勉強」 ・夜遅い時間帯の勉強	→M君、F君と比べて、自分の学習習慣や学習環境と似ているところがあれば指摘させ、挙げられた点について学級全体の傾向を挙手により確認させる。 感情統制能力に関する工夫 →学習上の悩みの原因と自分の対比
開	3 「中学生活と進路」pp.52-53の「苦手意識を取りのぞこう」を読んで、苦手意識を取り除く方法を班で考える。 ・不得意になった原因を突き止める ・理解できるところとできないところをはっきりさせる ・自分の将来の希望と結び付けて考える	→導入で示した、学級のみならず「学習に関する不安や悩み」のアンケート結果とも照らし合わせて考えさせる。苦手意識を取り除くための視座として、三つの点を指摘させる。 問題解決能力に関する工夫 →グループでの話し合い
4	各自の学習活動の実態と、学習上の不安や悩みを「相談用紙」に記入する（クライアント）。 ・相談用紙の、今までの「家庭での学習の取り組み状況」のアンケートに回答する ・学習活動に関する不安や悩みを書く	→各自の学習活動の実態と学習上の不安や悩みを事項に記入させる。 「相談用紙」を二つ折りにし、表に自分だけが分かる印を付けさせる。 「相談用紙」を兼ね、授業の級友に渡すように再配布させる。
5	任意の級友の「相談用紙」にコメントを記入する（カウンセラー）。 ・クライアントの学習の実態、不安や悩みに対して、アドバイスを励ましを記入する	人間関係能力に関する工夫 →「相談用紙」への正直な記入 実際にアドバイスや励ましを考えさせる。書き終わったら、二つ折りにして提出させる。自分のマークの付いた「相談用紙」を持っていかせる。
6	回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーの思いをよく考えてみる	次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。 ・学習活動の実態、不安や悩みを書いたときの気持ち ・カウンセラーとしてアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち ・回答を読んだ時の気持ち
終	7 ピア・カウンセリングを取り入れて学習活動を振り返って、自分の思いや感想を発表する。 ・不安や悩みは自分だけではなかった ・具体的なアドバイスがあって参考になる ・どちらも悩んでいるので先生に相談したい	数名に発表させる。本時の活動を基にして自分の学習活動を改善し、進路実現に向けて努力していくように促す。また、教育相談を随時実施することを誓う。また、回答を熟読して「相談用紙」に長を記入させ、提出させる。 感情統制能力に関する工夫 →ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし
3		
分		
5	事後指導 ・学習計画を作成させ、それに基づいて学習させる。また、必要に応じて個別の教育相談を行う。	

「白抜き反転数字と題材名」は、「各学年毎のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」の図の中の「白抜き反転数字と題材名」に一致します。

「各学年毎のガイダンスの機能を生かした学級活動の指導計画案」に示した六つの能力の中から、本時にかかわる能力について掲載しています。  
また、それぞれの能力を展開のどの活動場面で培うかを、「主な指導と援助」の欄に示しました。

3番の指導上の工夫（留意点）と4番の展開の中の網掛けゴシックは、ガイダンスの機能の充実を図るために行う活動の工夫を表しています。

吹き出しの中に、指導と援助、活動のヒントを掲載しました。

事後指導を明示し、指導の継続がなされるよう、配慮しました。

#### 活用の手順・方法

「発表資料」pp.14-15を参照してください。

#### 活用上の留意点

- ・主な参考資料は、日本進路指導協会編『中学生活と進路』指導書、埼玉県中学校進路指導研究会編「進路学習を核とした学級活動の展開」です。これらを併せて見て頂くことで効果が期待できると考えます。
  - ・「適応」と「選択」にかかわる題材はできるだけ取り上げましたが、体育祭や文化祭、修学旅行など、各学校の独自色が強い題材については割愛しました。また、二学期末の反省や冬休みの計画作りなども、一学期末の反省や夏休みの計画作りで準用することを考え割愛しました。
  - ・学級組織作りのように、各学年の題材が類似しているため、活動内容も類似した計画になっている場合があります。生徒の発達段階や実態、指導のねらいなどを考慮し、適宜工夫して活用してください。
  - ・内容や構成の面で、不十分なもの、実際の指導で不都合が生じそうなもの（活動の内容が多すぎたり、少なすぎたり、主体的活動が難しい内容であったり等）があります。適宜組み替えたり取捨選択したりして活用ください。
- ※今回示した指導計画案は、ガイダンスの機能の充実を図った指導の、いわばたたき台です。多くの方々に実践して頂き、よりよいものに修正・改善がなされていくことを願うものです。